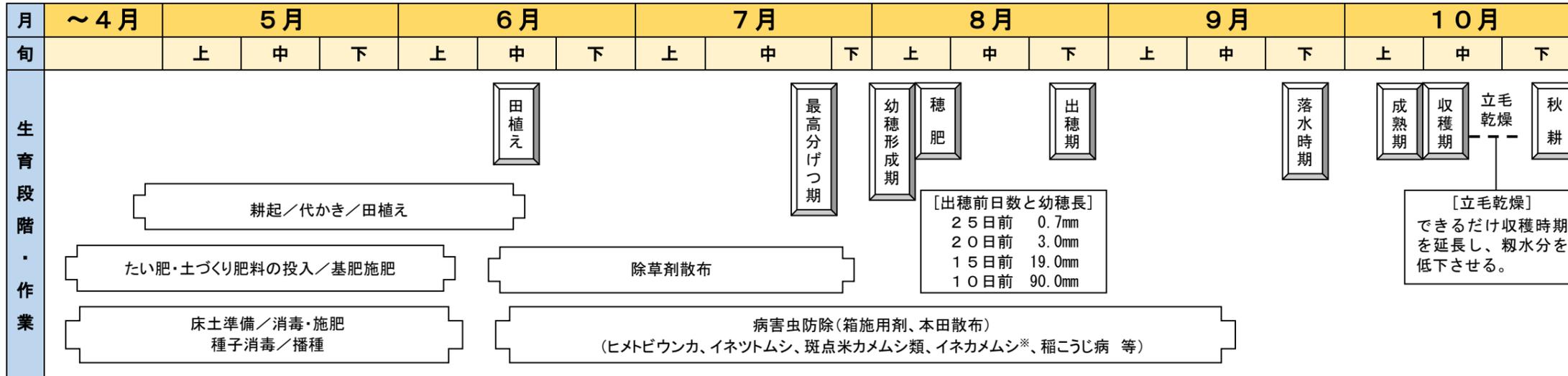
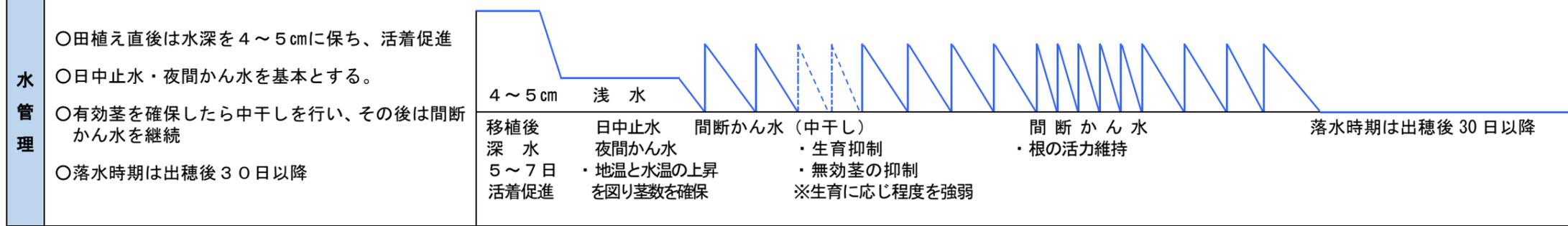


# 普通植 飼料用米多収品種「月の光」栽培ごよみ（改訂版）

令和8（2026）年2月  
安足地方農業振興協議会  
安足農業振興事務所



- 品種特性**
  - ・縞葉枯病抵抗性をもつ。
  - ・いもち病に強い（あさひの夢と同程度）。
  - ・短稈で倒伏しにくい。
  - ・穂数が少ない。
- 深耕、土壌改良資材などによる土づくり**
  - ・深耕 15 cm以上を確保する。
  - ・良質な完熟たい肥 1,000kg/10a 施用する。
- 薄播きによる健苗育成**
  - ・1箱当たりの播種量は乾籾で 150g 以下。
- 適正な施肥体系**
  - ・地力の低いほ場への作付けは避ける。
  - ・総窒素施肥量 10kg/10a を基本とし、地力などに応じて加減する。
  - ・全量基肥の場合、分肥体系の総窒素施肥量（10kg/10a）から10～20%程度減肥する。
- 適正な栽植密度**
  - ・植付け本数は3～5本（平均4本）とし、太茎形成により登熟を高める。
  - ・栽植密度 18～21 株/m<sup>2</sup>（60～70 株/坪）
  - ・1 株穂数が少ないため、収量を確保するために極端な疎植は避ける。
- 間断かん水を基本に、落水は出穂後 30 日以降**
  - ・有効茎確保後は間断かん水を基本に、中干しは生育に応じて程度を強弱する。
  - ・出穂後の異常高温時には、こまめな間断かん水により、地温の低下、根の活力維持を図る。
  - ・落水時期は出穂後 30 日以降を目安とする。
- 適正な病虫害防除**
  - ・発生予察情報に基づき、病虫害の防除に努める。
  - ※イネカメムシは、斑点米を発生させるだけでなく、出穂直後の籾を加害することにより、籾の不稔による減収を引き起こす特徴がある。
  - イネカメムシの発生が多く、被害が懸念される地域では、飼料用米を含めた水稻生産において、出穂期の防除を計画的に実施する。
- 収穫・乾燥・調製**
  - ・収穫適期は、穂首近くに緑色を残した籾が全体の10%程度になった頃以降とする。
  - ・立毛乾燥を行い、主食用米との収穫作業時期の分散と乾燥コストの削減を図る（倒伏、穂発芽、鳥害などに注意）。
- 主食用米へのコンタミ（異品種混入）防止**
  - 主食用米と飼料用米を並行生産している場合、主食用米への飼料用米混入を防ぐために、以下の点に注意する。
  - ・種子の予措から移植まで、種や苗箱を取り違えないように注意する。
  - ・飼料用米作付ほ場の団地化及び固定化に努める。
  - ・品種毎に作業（田植・収穫・乾燥・調製）を分ける。
  - ・収穫・乾燥調製後、コンバイン・乾燥機・調製用機械の清掃を十分に行う。
  - ・飼料用米から主食用米に復帰する場合、漏生株や異株の除去に努める。



■暫定施肥基準（10a 当たり）				■施用例（10a 当たり）						
土壌改良資材	施肥体系	総窒素施肥量（基肥+追肥）	基肥窒素量	追肥		基肥肥料	基肥施肥量	追肥肥料	追肥施肥量	備考
				時期	窒素量					
完熟堆肥 1,000kg	分 施	10kg	7kg	出穂前23日	3kg	BB-F284	60kg	NK-205	15kg	BBファイト055は、りん酸・加里成分が低いので、不足しないよう土壤中成分に留意する。
	全量基肥	8～9kg	8～9kg	—	—	BBファイト055	27～30kg	—	—	

<b>【育苗】</b> 1 種子の準備 ・種子量 3kg/10a ・種子伝染性病害防除のため、必ず種子消毒を実施する。 ・浸種水温 10～15℃ ・積算温度 100～120℃（未消毒種子） 120～130℃（消毒種子） 2 播種 ・乾籾で 150g/箱以下 ・苗立枯病予防のため、床土消毒剤を使用する。 3 管理 ・午前中に控えめなかん水	<b>【土づくり】</b> ・完熟堆肥 1,000kg/10a ・深耕 15 cm以上を確保する。 <b>【施肥】</b> ・分施 基肥7kg/10a+追肥3kg/10a ・全量基肥 8～9kg/10a ※多肥栽培に適するが、極端な多肥は避ける。 ※土壌の肥沃度、前作、堆肥施用状況により施肥量を加減する。	<b>【田植】</b> ・栽植密度 18～21 株/m <sup>2</sup> （坪 60～70 株） ※1株穂数が少ないため、極端な疎植は避ける。 ・田植機のかき取り量を調節し1株当たり3～5本植え（株内のバラツキを少なくする） ・田植え直後は水深4～5cmに保ち、活着を促進する。	<b>■除草・病虫害防除での注意点■</b> 農業はラベルの表示を確認して正しく使用する。 <b>【除草剤】</b> ・田面を均一に保つ。 ・健苗の移植に努める（軟弱苗や極端な浅植では葉害を生じる可能性がある）。 ・強風下での使用を避ける。 ・除草効果を高めるため、散布後7日間以上水を保つ。 <b>【病虫害防除】</b> ・発生予察情報に基づいた適切な防除を行う。
--	--	---	---

表 令和7年度「月の光」展示ほ生育調査データ（足利市）

肥料名	移植日（月/日）	出穂期（月/日）	成熟期（月/日）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/m <sup>2</sup> ）	1穂籾数（粒/本）	千粒重（g）	精玄米重（kg/10a）	倒伏程度
BBファイト055	6/16	8/24	10/10	79	22.6	294	105	21.2	577	0
BB飼料用米専用 211				75	22.0	333	83	21.6	530	0

注）総窒素施肥量は、9.0kg/10a  
千粒重、精玄米重は、1.70mm 篩選 倒伏程度は、0:無、1:微、2:少、3:中、4:多、5:甚の6段階評価

